

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (相可高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の夢をかなえる学校 ・地域と共に歩む学校 ・教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校
(2)	育みたい 児童生徒像	夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
	ありたい 教職員像	生徒の学力向上に努めるとともに生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員 同僚性を発揮するとともに互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの要 求・期待		生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と 連携するうえでの 要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	生徒：分かる授業・楽しい授業、進路実現、部活動の活性化、学力の定着・向上、希望進路の実現 保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実 地域社会：地域活性化への貢献 関係企業・団体等：話題性によるイメージの向上	保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 地域社会・企業等：教育活動への理解・協力・支援、学習成果を公表・活用する機会の提供	
(3) 前年度の学校 関係者評価等		○統合後7年が経過し、普通科について、学力や進路等について総括し、今後の在り方について考える時期に来ています。 ○各教科での「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の実施と「ドリームチャレンジタイム（DC T）」の見直しと改善が必要です。 ○全学科において、生徒の学習意欲の喚起をより一層図る方策の検討が必要です。 ○社会の変化に柔軟に対応できる学力を身に付けた人材の育成が必要です。 ○総勤務時間縮減に向けて教職員の勤務の在り方を見直しと精査が必要です。	
(4) 現状と課 題	教育 活動	○普通科について、希望進路の90%が進学となる中で、より一層効果的で適切な教育課程や指導の在り方が課題となっています。 ○「主体的・対話的で深い学び」については2年間の研修で必要性については浸透しましたが、実際の実施については不十分な面もあります。 ○生徒の学習意欲の喚起を図るためDC T等の指導について見直しが必要です。 ○グローバル化や地方創生等に対応できる学力を持った生徒の育成が必要です。 ○生徒の学力をより一層確実に定着・伸張させるために自宅学習や補習の在り方について研究し実施する必要があります。 ○学校全体に落ち着いてともに学ぶ雰囲気があり、自他を大切にする学校文化が醸成されていますが、さらに自尊感情の醸成や役立ち感を実感できる教育の充実に取り組む必要があります。	
	学校 運営等	○勤務時間を超えて分掌業務、部活動指導業務等に従事するなど恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の補習・会議等で多忙感を感じている職員がいます。 ○授業・分掌業務・部活動指導等について、協力・協同して取り組む体制を確立するとともに質を重視した見直しを行い、教職員がライフワークバランスを図りつつ、やりがいを実感できる学校づくりを進める必要があります。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしています。 ○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取り組みを地域社会と連携しつつ多角的に行い、地域の活性化に貢献しています。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○「皆がやりがいを実感する学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足しています。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導・キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○進学希望者が90%を超えるという生徒の実態を踏まえてカリキュラムマネジメントに努め、普通科の教育課程の見直しを行います。 ○教育活動全体を通じて「命を大切にする教育」や「政治的教養を育む教育」の充実に努め、自他をともに大切にする生徒の育成を図ります。 ○地域社会とグローバル社会で通用する力を持った人材育成に資する教育の在り方について研究しつつ実施します。 ○生徒の意欲を引き出す教育の在り方について研究し、生徒が「探求」しようとする授業をデザインします。(DCTと宿題管理、キャリア教育プログラムの見直し等) <p>【活動指標】普通科教育課程の見直し、命を大切にする教育と政治的教養を育む教育、探求学習の実施</p> <p>【成果指標】相可高校に満足と答えた生徒の割合90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○普通科については、統合時に導入した多様な科目を精査し、平成30年度から実施する教育課程の見直しを行いました。生徒にとっては進路にあわせてどの科目を選択すべきかがよく分かるようになり、先生にとっては無理な担当がなくなり、有効な教育課程になりました。〔目標達成状況◎〕 ○「命を大切にする」教育については、朝のあいさつ運動や人権LHRにおける自尊感情の醸成等の学習、生徒への普段の声かけや寄り添い、グループ学習の導入、集会での生徒への問題提起等、学校生活全体を通じて実施しており、学校全体の雰囲気は落ち着いています。「政治的教養を育む教育」については、現代社会等の授業や外部講師による講演会を通じて実施しました。〔目標達成状況○〕 ○食物調理科が国のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)の指定を受け、グローバル社会で活躍する人材育成とグローバル・ブランドの創造というテーマで、本年度から研究開発を始めました。国際交流の増加・充実や外国でのインターンシップの実施、他学科と 	

		<p>の連携の充実など初年度から多くの成果がでました。〔目標達成状況○〕</p> <p>○探求的な学習については、「探求起・承・転・結」という相可高校独自の仕組みを作り、次年度から年度更新で実施することになりました。自己を知る、文章の書き方指導、資格取得への挑戦、生徒自身の興味関心に応じた探求学習等を3年間の計画に基づき実施します。実施計画は改革プロジェクトチーム会議で原案を作成し、その後、研修や試行を実施したうえで、職員全員が納得して決定しました。〔目標達成状況○〕</p>
--	--	--

改善課題

- 進学希望が増加傾向にあるなど生徒の進路希望の変化や、今後進む大学入試制度改革に対応するため、今後は一層充実した教科指導及び進路指導が必要になります。そのための具体的な内容や方法、手立てについては、次年度早々に検討を始める必要があります。
- 「命を大切に」「政治的今日を育む」教育については、知識の学習より、共同体意識や協働意識、さらには自尊感情の醸成が重要であり、工夫しながらさらに一層多くの機会を通じて実施する必要があります。
- 探求学習については次年度以降本格実施となるため、今後取組の蓄積と改善が必要です。
- OSPH事業でのグローバル・ブランドの創出については着手できませんでした。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて、先進校の事例に学ぶなど校内での研修の一層の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 先進校視察と研修会の実施 【成果指標】 視察や研修会を参考にして「主体的・対話的で深い学び」の授業を実施したと答えた教員の割合75%以上</p>	<p>○京都堀川高校の第19回研究大会(6/30)と探求基礎研究発表会(9/16)に、複数の教員で参加し、「主体的・対話的で深い学び」について研修を行いました。また、その成果を全校で共有するとともに、試行的にいくつかのクラスで「探求」学習を行い、相可高校版の「探求」学習の実施の必要性と在り方について確認しました。教科指導でも工夫しながらペアワークやグループワーク、調べ学習等を取り入れて授業を実施する先生が増えてきました。〔目標達成状況◎〕</p>	

<p>少子化を見据えた活性化策</p>	<p>○相可高校ならではの特色ある教育について、教育面での相可高ブランドとして総括し、地域社会に向けて積極的に情報発信します。 【活動指標】 管理職及び学科主任による中学校への訪問 【成果指標】 入学希望者の増加</p>	<p>○普通科については、難関大学まで目指せる指導體制が整備されているという点や、保育や看護といった職業を選択する生徒が多くその進路実現に向けての指導體制が整備されているといった点も評価されています。生産経済科では、地元企業から地域の農産物を生かした商品について共同研究の依頼があるとともに園芸福祉や伊勢芋の種芋配布、松阪牛の肥育による地域活性化などの貢献を行っています。環境創造科については、本年度も測量士合格者数が日本一となり、進路についても公務員が22名となるなど大学顔負けの成果を出しています。食物調理科では、就職の他、食について専門的に学べる大学への進学等を希望する生徒もおり、将来の食のプロとして活躍できる人材育成が行われています。〔目標達成状況◎〕</p>
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○総勤務時間の縮減に向け、効率的な業務推進や年休等を有効に活用できる環境整備に努めます。本年度は、委員会の構成を見直し、会議時間の一層の短縮(50分以内)を図り、時間外労働については、月あたり4時間の削減を、休暇取得については年あたり1日分の増加を目指します。あわせて、時間外労働が80時間を超える者の減少を目指します。定時退校日と部活休養日について具体的な数値目標を設定し実施して、ライフワークバランスを図ります。 ○教育活動に対してすべての教職員が法令遵守のもとで、協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革と向上を図ります。特に、部活動指導の在り方について検討し、実効性ある取組につなげます。 【活動指標】 会議時間の短縮、時間外労働の削減、休暇取得の増加、定時退校日と部活休養日の検討と実施 【成果指標】 会議時間50分以内の実施、時間外労働の月あたり4時間の削減、休暇取得の年1日増加、定時退校日(1ヶ月に2回)と部活休養日(週1回)の設定と実施</p>	<p>○会議については、左記の指標をほぼ達成することができました。会議の一層の効率を図るため、委員会の構成員について見直しを図り、いくつかの委員会でメンバーを少なくしました。会議時間については時間が延びる会議も若干ありましたが、その時間は最大でも30分以内であり、ほとんどの場合、時間内に終了しました。時間外労働については、特定の教員が課題となっています。本人の若い頃からの働き方や性格もあり、改善のための有効な手立てをみつけることは難しいですが、粘り強く働きかけていきたいと考えています。定時退校日はほぼ定着し、この取組については職員も歓迎しています。部活休養日については、いくつかのクラブで未達成となっており課題となっています。〔目標達成状況△〕 ○本校が今後、重点的に取り組む必要がある教育の一つが「探求」的な学習であり、その必要性和意義について、3年間かけて全職員で研修を深めました。また、その実施に向けての研修会については、参加率も良く、グループごとの話し合いでは</p>

		<p>活発な意見交換が行われました。目標に向かって組織として協働する体制がより一層整ったと思います。但し、部活動の在り方については、活動時間・休養日設定について一部で改善が必要で、さらに共通理解を図るための工夫が必要です。〔目標達成状況△〕</p>	
--	--	--	--

改善課題

○グローバル教育については、食物調理科が中心となりSPH事業で実施しており、今年度、普通科の協力が得られましたが、さらに他学科へ広める必要があります。あわせて、交流等の在り方についても経験の蓄積と一層の工夫が必要です。

○相可ブランドはかなり定着していると思われませんが、募集に結びつかないところが課題です。ブランド化が一方で本校に入りにくいという情報に結びつき、希望の段階では本校への進学希望者が一定数いるにもかかわらず、実際の受検時には集まらないという現象が発生しています。

○定時退校や部活休養日については、一部の教員と部において課題となっており、改善が必要です。当該教員については、個別のヒアリングや指導を行っていますが、長年の習慣や本人の性格的特性、さらに、大会で勝たなくてはいけないという使命感等により、すぐさま意識変革や発想転換を行うことが難しく、時間をかけつつ、理解を求め、改善を図る必要があります。

○数年後の指導要領の改訂にむけて、教科、総合的な学習の時間、特別活動について、改訂の意義や目的を踏まえつつ、本校生徒の実態や課題に応じた指導となるよう、一層の情報収集と研修が必要です。

○部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう、全教員の共通理解を図る必要があります。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○継続して取り組んでいる朝読等の取組について、その意義を分析するとともに効果を確認し、特色ある活動や今求められている活動の一つとして位置づけていただきたい。</p> <p>○「読み・書き・そろばん」は改めて大切であると思われるので、重視していただきたい。</p> <p>○部活動については一定の活動時間の確保は必要だが、限られた時間を有効に活用することも大切である。また、保護者の意識は多様であるが、多くの声を聞き参考にすることも大切である。</p> <p>○生徒の自主性や主体性を伸ばす方向で学校改革が進んでいることがよくわかる。より一層取組を進め、成果と実績を蓄積していただきたい。</p> <p>○探求的な学びをするに当たり、生徒がまちがえても安心して発言できる環境作りや学びのルールの徹底なども一層考慮していただきたい。また、人の話を聞く（傾聴）と言うことの大切さも大切にいただきたい。</p> <p>○他校にはない外国の生徒との交流等のチャンスは色々な場面で生かしていただきたい。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○新しい大学入試の仕組みや企業が求める能力等の情報収集に努め、生徒の進路希望が実現できる指導体制の充実に努めます。</p> <p>○「命を大切に」「政治的今日を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組みます。</p> <p>○探求学習については、1年生から年度更新で実施し、課題を整理しながらより一層充</p>
---------------------	---

	<p>実した取組となるよう改善しながら取り組みます。</p> <p>○グローバル・ブランドの開発について、関係機関等との連携を図りながら計画的に実施します。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○グローバル教育については、今後、普通科、生産経済科、環境創造科においても外国の生徒と交流する機会を持てるように工夫します。</p> <p>○相可ブランドをより一層確実に知っていただくために、中学2年生を対象とした学校説明会、出前学校説明会等の充実を図ります。</p> <p>○定時退校や部活休養日については、個人へ働きかける回数やヒアリング・指導・助言の内容を工夫するなどして継続的に改善を進めます。</p> <p>○指導要領の改訂内容を含め、今後求められる教育については、情報収集に努めるとともに研修を深め、実施に向けての着実な準備を進めます。</p> <p>○部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう、全教員の共通理解を図ります。</p>